
大腸がん検診

大腸がん検診（便潜血検査）の実施成績

川崎 成郎

東京都予防医学協会消化器診断部長

はじめに

東京都予防医学協会(本会)では、1986(昭和61)年より便潜血検査による大腸がん検診を実施している。そして、1次検査で陽性となった精密検査対象者には大腸がん追跡調査用紙を配布し、受診した提携先医療機関またはそれ以外の医療機関より精密検査の結果を返信していただくという、追跡調査システムを実施している。なお本システムの対象者は職域検診、地域検診、人間ドックの受診者である。

便潜血検査は、抗ヒトヘモグロビン・マウスモノクローナル抗体を利用した金コロイド凝集反応で便中のヘモグロビンを測定する免疫比色法(富士フィルム和光純薬社)により、大腸内の出血の有無を調べる方法である。

1日のみ採便する1日法と2日間採便する2日法があり、検査委託団体や健康保険組合との契約により異なる。また、検体は基本的には検診時に回収しているが、10月中旬～2月に実施する一部の事業所では郵送による回収も行っている。

本稿では、2023(令和5)年度の大腸がん検診の実施成績と結果について報告する。

受診者数と年齢分布

大腸がん検診総受診者数は男性36,867人、女性29,014人の計65,881人で、男女比は1.27:1と男性が多くなっている。男女比率を検診別にみると、男性は職域検診では61.0%、人間ドックでは63.8%に対し、地域検診においては女性が69.7%と高い傾

表1 検診区分別・年齢別分布

検診区分	性別	年 齢 区 分							総計	男女比率 (%)
		～29歳	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80歳～		
職域	男性	425	2,526	8,801	10,162	5,230	702	105	27,951	(61.0)
	女性	471	1,783	5,960	6,466	2,658	475	61	17,874	(39.0)
	合計 (%)	896 (2.0)	4,309 (9.4)	14,761 (32.2)	16,628 (36.3)	7,888 (17.2)	1,177 (2.6)	166 (0.4)	45,825 (69.6)	
地域	男性		24	576	826	958	918	208	3,510	(30.3)
	女性		31	2,408	2,359	1,793	1,253	233	8,077	(69.7)
	合計 (%)		55 (0.5)	2,984 (25.8)	3,185 (27.5)	2,751 (23.7)	2,171 (18.7)	441 (3.8)	11,587 (17.6)	
人間ドック	男性	11	842	1,661	1,724	956	205	7	5,406	(63.8)
	女性	8	498	958	995	504	96	4	3,063	(36.2)
	合計 (%)	19 (0.2)	1,340 (15.8)	2,619 (30.9)	2,719 (32.1)	1,460 (17.2)	301 (3.6)	11 (0.1)	8,469 (12.9)	
全体	男性	436	3,392	11,038	12,712	7,144	1,825	320	36,867	(56.0)
	女性	479	2,312	9,326	9,820	4,955	1,824	298	29,014	(44.0)
	合計 (%)	915 (1.4)	5,704 (8.7)	20,364 (30.9)	22,532 (34.2)	12,099 (18.4)	3,649 (5.5)	618 (0.9)	65,881	

向を示した。検診区分としては職域検診が45,825人(69.6%)、地域検診は11,587人(17.6%)、人間ドックは8,469人(12.9%)であり、2022年度より職域検診では1,962人、地域検診では1,238人、人間ドックでは100人とそれぞれ増加した。職域検診については、2021年度に過去5年間において初めて受診者数が減少したが、2023年度は過去最高の受診者数となった。

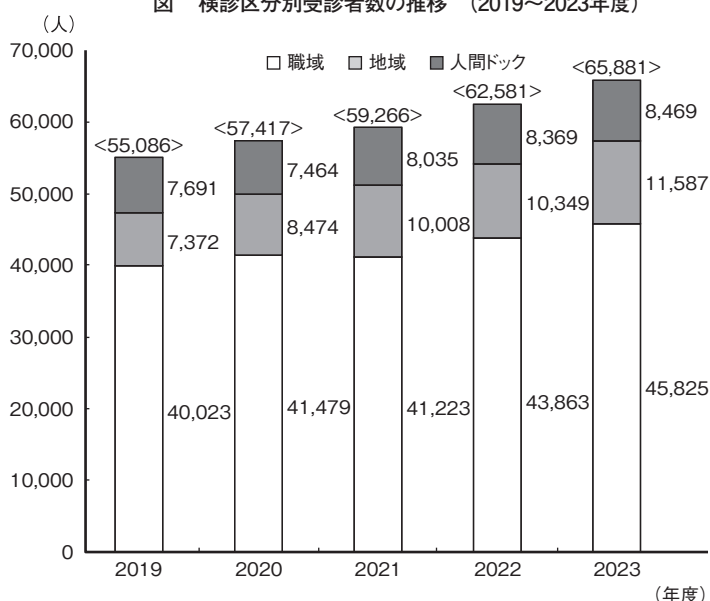
受診者数の年齢分布は、男性は職域検診・人間ドックは50～59歳が最も多く、地域検診では60～69歳が最も多いという結果となった。

次いで女性においては職域検診・人間ドックで50～59歳が最も多く、地域検診では、40～49歳が最も多いという結果であった(表1)。

受診者数の推移

検診区分別受診者数の推移を示した(図)。2022年度と比較すると、受診者数が全体で3,300人(5.27%)の増加であった。年ごとに受診者の増加傾向は続いて

図 検診区分別受診者数の推移 (2019～2023年度)



おり、増加率については、2020年度(4.23%)、2021年度(3.22%)と低め傾向であったが、2022年度(5.59%)、2023年度(5.27%)は、5%台となった。

検診結果

職域検診での便潜血検査の要精検者数は3,295人、要精検率は7.19%で、精検受診者数は515人、精検

表2 検診結果

(2023年度)

検診区分	性別	総受診者数	1次検診結果		精検受診者数	精検未把握者数	精密検査診断結果						大腸がん陽性反応適中度	
			異常なし	要精検			大腸ポリープ	大腸憩室症	炎症性腸疾患	痔核	異常なし	その他		大腸がん
職域	男性	27,951	25,814	2,137	292		147	24	9	9	89	6	8	
	女性	17,874	16,716	1,158	223		84	16	6	11	89	6	11	
	合計	45,825	42,530	3,295	515	2,780	231	40	15	20	178	12	19	
	(%)		(92.81)	(7.19)	(15.6)	(84.4)							(0.041)	(0.58)
地域	男性	3,510	3,201	309	115		69	12	2	6	17	3	6	
	女性	8,077	7,527	550	221		91	17	0	22	85	4	2	
	合計	11,587	10,728	859	336	523	160	29	2	28	102	7	8	
	(%)		(92.59)	(7.41)	(39.1)	(60.9)							(0.069)	(0.93)
人間ドック	男性	5,406	5,038	368	65		33	4	3	4	20	0	1	
	女性	3,063	2,863	200	40		18	4	1	2	15	0	0	
	合計	8,469	7,901	568	105	463	51	8	4	6	35	0	1	
	(%)		(93.29)	(6.71)	(18.5)	(81.5)							(0.012)	(0.18)
総計	男性	36,867	34,053	2,814	472		249	40	14	19	126	9	15	
	女性	29,014	27,106	1,908	484		193	37	7	35	189	10	13	
	合計	65,881	61,159	4,722	956	3,766	442	77	21	54	315	19	28	
	(%)		(92.83)	(7.17)	(20.2)	(79.8)							(0.043)	(0.59)

受診率は15.6%であった。大腸がん発見率は0.041% (男性8人, 女性11人)で, 陽性反応適中度は0.58%であった。

地域検診での便潜血検査の要精検者数は859人, 要精検率は7.41%で, 精検受診者数は336人, 精検受診率は39.1%であった。大腸がん発見率は0.069% (男性6人, 女性2人)で, 陽性反応適中度は0.93%であった。

人間ドックでの便潜血検査の要精検者数は568人, 要精検率は6.71%で, 精検受診数は105人, 精検受診率は18.5%であった。大腸がん発見率は0.012% (男性1人, 女性0人)で, 陽性反応適中度は0.18%であった。

今回, 職域検診・地域検診・人間ドックすべての検診で受診者の増加が認められたが, 全体の精検受診率は, 2022年度の23.3%に対し2023年度は20.2%と3.1%も低下してしまった。職域検診(15.6%), 地域検診(39.1%), 人間ドック(18.5%)すべての検診区分において2.1%~4.8%の低下がみられた。

精検受診者956人の精検結果の内訳は, 大腸がん以外では大腸ポリープが最も多く, 次いで大腸憩室症, 痔核, 炎症性腸疾患の順であった。その他としてはクロンカイト・カナダ症候群疑い, S字結腸切除後などがあった(表2)。

発見された大腸がんの特徴

2023年度に発見された大腸がんは28人であり, 内訳は男性15人, 女性13人で男女比は1.2:1であった。

早期がんは24人(85.7%), 進行がんは4人(14.3%)であった(表3)。

大腸がん検診のまとめ

本会における2023年度の大腸がん検診受診者数は65,881人で, 2022年度の62,581人から5.27%増加した。

表3 発見がんの特徴

	(2023年度)	
	早期がん	進行がん
発見数	24人	4人
[組織型別]		
腺がん	16	3
不明	8	1
[肉眼分類別]		
O-I p	4	
O-I sp	5	
O-I s	5	
O-II a	5	
O-II a+c	1	
2型		2
5型(分類不能)		
その他の組み合わせ	1	
不明	3	2
[深達度別]		
M	15	
SM	3	
M P		1
SS		2
不明	6	1
[病期別]		
0期	11	
I期	3	
II期		1
III b期		1
IV期		1
不明	10	1

要精検率は7.17% (2022年度7.08%)と許容値(7%)を上回り, 要精検者数も増加した。精検受診率は20.2%と2022年度の23.3%から減少した。精検受診者数は956人と, 2022年度の1,032人から76人の減少だった。年度ごとのある程度の増減は避け難いが, 増加に転じた2022年度から再度減少していることは懸念材料である。大腸がん検診に関するさらなる啓発により, 受診者をより増加させることに努めていきたい。

本会では大腸がん検診精検受診率の向上を目的に, 2015(平成27)年4月から全大腸内視鏡検査を導入している。2023年度の要精検者数からみると, 依然として十分な成果を上げているとは言い難い。今後は要精検者が確実に精検を受けるような受診勧奨方法を確立したい。要精検者が強い認識を持てるような案内をより徹底することが必要である。